

施工の手引き

国産材フローリング 「リアルフィット エコ」

用途：直張、一般内装用

※お施主様向けの使用上のご注意も記載しております。必ずお施主様にお渡しください。

◆施工上のご注意

- 開梱後は速やかに施工してください。開梱後の放置は、環境湿度の影響で反りやひき曲がりの原因になります。
- 施工前に製品に不具合がないか、必ず検品を行ってください。万が一不具合があった場合には、お買い上げ店までご連絡ください。施工後の不具合による交換はお受けできません。
- 本製品は一般内装用（一般住宅用、上履き）です。一般住宅以外のオフィス、病院、商業施設などには対応しておりません。
- ピアノ、大型冷蔵庫など重量物を設置する場合は、十分に下地を補強してください。
- 本製品は MDF を基材に用いているため、水廻り（洗面所、脱衣所、トイレなど）には使用できません。水廻りには弊社床材「マーブルフィット」をおすすめします。
- 水濡れはすぐにふきとってください。基材のフクレの原因になります。

※美装時のワックスがけは不要です。

- 指定以外の施工による返品、苦情、交換には対応いたしかねます。

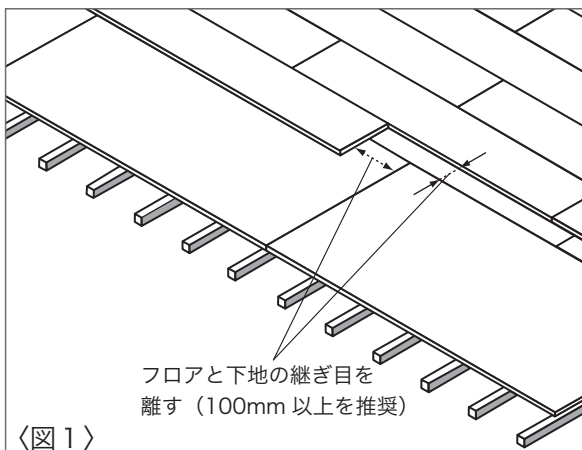
◆施工のしかた

1 下地について

- 本製品は捨張り工法専用です。根太には直接施工できません。
- 下地（根太、合板）は乾燥材を使用してください。木材水分計で12%以上では使用しないでください。
- 捨張りには12mm厚以上の乾燥した合板を、ウレタン系接着剤とビス（または釘）でレンガ張り（千鳥張り）してください。
- 3尺×6尺サイズの合板下地を使用する場合、張り始めの列に用いる合板の長さを1尺カットしておくことをおすすめします。後述のフロアとの割り付けで、フロアと下地の継ぎ目が重なりにくくなります。
- 下地は水平で平滑に調整し、合板接合部などの段差は1mm以内にしてください。

2 割り付けについて

- 施工前には仮並べを行い、色や木目のバランスを確認してください。
- フロアは3尺ずらしのレンガ張り（リャンコ張り、千鳥張り）としてください。
- フロアの継ぎ目と下地の継ぎ目が重ならないようにしてください。（100mm以上離すことを推奨）〈図1〉



〈図1〉

合板捨張りの場合は、根太とフロアの長手方向が直行し、フロア短辺が根太上にくるように割り付けください。

構造用合板捨張りの場合は、大引きとフロアの長手方向が直行するように割り付けてください。

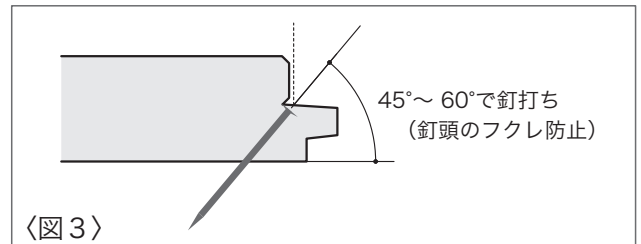
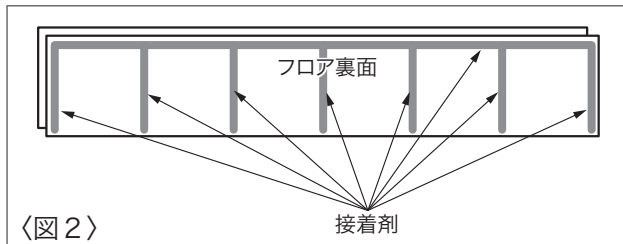
下地とフロアの継ぎ目は重ならないようにしてください。

3 施工について

- 接着剤と釘を必ず併用してください。

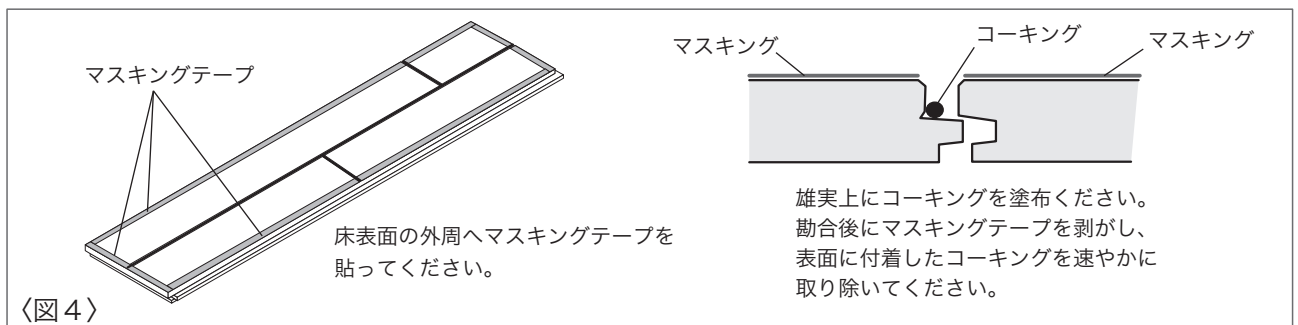
1) 接着剤塗布

- ウレタン系接着剤を使用してください。(推奨品：パル製ウレタン根太用接着剤)
- 捨張り合板に 303mm 以内のピッチで、フロア全面に渡るように塗布ください。〈図2〉
幅広の櫛目ゴテなどを使って、全面をカバーするように塗布することをおすすめします。



2) 釘打ち

- フロア用スクリーナー釘 (長さ 38mm 以上) またはステープル (長さ 38mm 以上) を使用してください。保持力のないピンタッカーやフィニッシュネイルは使用しないでください。
- 短手 (1尺側) には必ず2箇所釘打ちしてください。角度 45°~60°にて釘打ちしてください。〈図3〉
- 長手 (6尺側) には 303mm 間隔で釘打ちしてください。
- 壁際部分では必ず2~3mm 隙間を空けてください。巾木や枠をフロアとの隙間にかぶせて納めてください。
- ペットを室内で飼う場合など、事故的な水がかりが予想される場合には、継ぎ目からの水の侵入を防ぐため、コーキング処理をおすすめします。〈図4〉 ※洗面所、台所など常時水がかかる恐れがある場所には使用できません。



4 養生について

- 施工後は表面保護のため、パルの養生シートで保護してください。
- 養生シートの固定にはパルの養生テープをお使いください。
※指定品以外の布テープ、ガムテープなどの粘着力の強いものは絶対に使用しないでください。

お施主様へ

◆使用上のご注意◆

- 表面のすり傷、汚れがつきにくい処理をしておりますので、ワックスがけは必要ありません。ワックスをかけるとワックスの表面性能になります。
- お客様のご都合でワックスをかける場合は (株)リンレイの「ハイテクフローリングコート」をおすすめします。この場合、直接床面へまかず布に染みこませて塗布する等、使用上の注意をよくご確認の上お使いください。
- フロアコーティングは弊社では検証できておりません。施工される場合はコーティング業者様へご相談ください。(施工後の推奨メンテナンス方法など、見解が異なる場合があります。弊社ではおすすめしておりません)
- キャスターは繰り返しの使用や、材質・形状によっては表面に傷や汚れがつくことがあります。金属製、球状キャスターの使用は避けてください。キャスターの使用頻度の高い場所には必ずフロアマットなどを置いて床を保護してください。
- 普段のお手入れは、よくしぼった雑巾でふいてください。水拭きやスチームモップは基材のフクレなど不具合の原因になりますので、避けてください。
- ワックスはく離剤や溶剤は使用しないでください。